

事業所名	こどもリハビリテーションセンター	発達支援の5領域との関連性を明確にした こどもリハビリテーションプログラム	作成日	2024年	9月	1日
法人（事業所）理念	「ソーシャルインクルージョン社会の実現」 福祉=人権を最も必要としている”社会的排除を受けている人々（受ける可能性の高い人々）”を支援し、エンパワーすることです。そして、個々の支援にとどまらず、排除を生み出す社会をも改革するための力となるような取り組みを、他に先駆けて実践していきます。					
支援方針	<p>①子どものライフステージに応じた切れ目ない支援 子どもは、生まれてから大人になるまでの間、さまざまな成長や変化を遂げます。その中で、子どもが安心して成長し、自立していくためには、ライフステージに応じた切れ目ない支援が必要です。ヒューマンライツ福祉協会では、子どもの年齢や発達段階、ニーズに応じて、さまざまな支援サービスを提供します。また、子どもたちが幼児期から成人期まで一貫した支援を受けられるよう、関係機関と連携した支援にも取り組んでいきます。</p> <p>②子どもの強みを発見し可能性を伸ばすエンパワメント支援 ヒューマンライツ福祉協会では、子ども一人ひとりの強みを発見し、その可能性を伸ばすことを支援の目標としています。そのため、子どもとスタッフの信頼関係を築くことを大切にして、子どもの個性や特性を尊重し、子どもが自ら考え行動できるように支援していきます。子どもが自分の強みや可能性に気づき、自信を持って行動できるように、また子ども自身の自己肯定感を高め、自らの力で困難な状況を乗り越え、立ち直る力を育みます。</p> <p>③子どもを中心に家族や保育・教育機関等との協働による支援 ヒューマンライツ福祉協会では、子どもを中心に家族や保育・教育機関等との協働による支援を重視しています。子どもの支援は、子ども自身だけでなく、その家族や周囲の環境も含めて考えることが大切です。そこで、子どもを中心に、家族や保育・教育機関等と連携した支援を行っています。また、積極的に地域のネットワークに参画して、子どもたちが地域の中で安心して成長できる環境づくりにも取り組んでいます。</p>					
営業時間	9時	00分	18時	00分	送迎実施の有無	あり なし
発達支援の5領域	支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	<p>■支援目標</p> <p>①こどもの健康状態を定期的にチェックし、必要な対応を行います。 ②こどもが自分で伝えられない体調や気分の変化に気付けるよう、細かな観察を行います。 ③感染症対策と事故防止対策を徹底し、安全な環境でリハビリテーションを実施します。</p> <p>■支援内容</p> <p>①来所時に口頭での質問により、こどもの体調や健康状態を確認します。 ②いつもと違う表情、声のトーン、動きなどを観察し、体調や気分の変化に気づくように支援します。 ③手洗い、手指消毒、マスク着用などの感染症対策を徹底します。 ④安全な環境作りに努め、事故を防止します。</p>				
	運動・感覚	<p>■支援目標</p> <p>①動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図ります。 ②体幹・下肢を中心に筋力と筋緊張の改善を図ります。 ③筋出力調整能力の向上を目指します。</p> <p>■支援内容</p> <p>①運動プログラムを通して、粗大運動の獲得・安定化を図ります。 ②姿勢保持に必要な筋緊張及び筋力を改善・向上させるための運動を行います。 ③運動プログラムの基本課題と応用課題に取り組めます。</p>				
	認知・行動	<p>■支援目標</p> <p>視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行います。</p> <p>■支援内容</p> <p>ボールやプランコなど様々な物や素材に触れ、得られた情報を正しく認知・処理することにより、空間認知や時間概念、数の概念や色の名前などを獲得していきます。</p>				
	言語コミュニケーション	<p>■支援目標</p> <p>①個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行います。 ②基本動作能力を活用し遊びを展開していきます。ルールのある遊びを通してコミュニケーションや社会性を身につけます。</p> <p>■支援内容</p> <p>①プログラムではマンツーマンで支援を行い、遊びや運動を通して指示を出し理解を促します。 ②伝えたいことを代弁することや本人の言葉を傾聴することで、本人なりの言語化を促します。 ③基本課題・応用課題の終了後に遊びプログラムを実施する。遊びプログラムではペアのお友達と一緒に遊びを展開することで関係作りを進めます。</p>				
	人間関係社会性	<p>■支援目標</p> <p>①一人遊びから、大人が介入して行う共同遊びへの移行を支援します。 ②基本動作能力を活用し遊びを展開していく。ルールのある遊びを通してコミュニケーションを身につけます。 ③基本的な社会性を習得します。</p> <p>■支援内容</p> <p>①運動プログラムを通して担当スタッフとの関係を作りながら進めていきます。 ②遊びプログラムではペアのお友達と一緒に遊びを展開することで関係作りを進めます。 ③友達と挨拶したり、お礼を言ったりするなど、基本的な社会性を身につける機会をつくり出します。</p>				
	その他	<p>■本人支援の個別化 上記はあくまで一例であり、個々の利用者の状態やニーズに合わせてプログラムは個別化されます。</p> <p>■保護者への情報提供 定期的に保護者へリハビリテーションの進捗状況や課題などを共有します。</p> <p>■地域連携 必要に応じて、保育所や学校、福祉サービス事業者などと連携し、より効果的な支援を提供します。</p>				
家族支援	①こどもの信頼感を育み、家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援 ②家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助 ③こどもの発達上のニーズについての気づきの促しとその後の支援 ④心理的カウンセリングの実施 ⑤保護者同士の交流の機会の提供 ⑥こどもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助、講座、ペアレント・トレーニングの実施 ⑦家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供	移行支援	①具体的な移行や将来的な移行を見据えたこどもの発達の評価・支援 ②具体的な移行先との調整 ③移行先との支援方針・支援内容の共有や、こどもの状態・親の意向・支援方法についての伝達 ④家族への情報提供や移行先の見学調整 ⑤移行先の受け入れ体制づくりへの協力 ⑥移行先への相談援助 ⑦進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助 ⑧併行利用先とのこどもの状態や支援内容の共有 ⑨併行利用の場合の利用日数や利用時間等の調整			
地域支援・地域連携	①こどもが通う保育所等や通う予定の学校・放課後児童クラブとの情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助、 ②児童発達支援計画の作成又は見直しに関する会議の開催 ③こどもを担当する保健師や、こどもが通う医療機関等との情報連携や調整 ④こどもが利用する障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携 ⑤虐待が疑われる場合には、児童相談所やこども家庭センターとの情報連携 ⑥個別のケース検討のための会議の開催	職員の質の向上	①発達が気になる子どもの研修の実施 ②OJTの実施 ③発達障害等のスーパーバイズの実施 ④情報共有の促進（職員会議、事例検討会など） ⑤1on1ミーティング、職員評価制度の導入			
主な行事等	西成区保護者会SUNO、発達障害等にかかわる研修会の開催、こどもリハビリテーション体験・見学会 など					